

## 第 83 回日本歯科理工学会学術講演会報告

令和7年度第83回日本歯科理工学会学術講演会は、日本歯科大学新潟生命歯学部歯科理工学講座教授 大熊一夫先生を大会長、愛知学院大学歯学部歯科理工学講座教授 林 達秀先生を実行委員長として2025年4月19、20日に愛知学院大学楠元キャンパスにて開催した。一般講演では口頭発表21題(内6題研究奨励賞応募口頭発表、1題若手研究者部門)、ポスター発表51題の計72題の発表が行われた。連日300名弱の参加者により活発な討論が行われた。一年に一回の全国規模の学術講演会であり、日本国内だけでなく台湾、韓国の研究者も発表・参加した。ポスター発表は例年通り2日間掲示することで発表が多くの子の目に届くようにした。

初日は、午前に研究奨励賞応募口頭発表と若手研究者部門口頭発表およびポスター発表が行われ、各地方会役員会と定時社員総会・会員総会が開催された。午後には特別講演として日本歯科大学生命歯学部発生・再生医科学講座教授中原 貴先生に「歯髓細胞が拓く歯科医療のパラダイムシフト」、順天堂大学医学部呼吸器外科学講座教授鈴木健司先生に「近代外科学の evolution-変わるものと変わらないもの」をテーマにご講演を頂いた。口頭発表(4題)終了後、貸し切りバスで移動し、18時30分より名古屋の繁華街にあるヒルトン名古屋にて懇親会を開催した。愛知学院大学学長 木村文輝先生、愛知県技士会会長 鈴木正隆様、愛知県衛生士会会長 金森いづみ様の祝辞を頂き、私どもの目標を上回る約220名が集

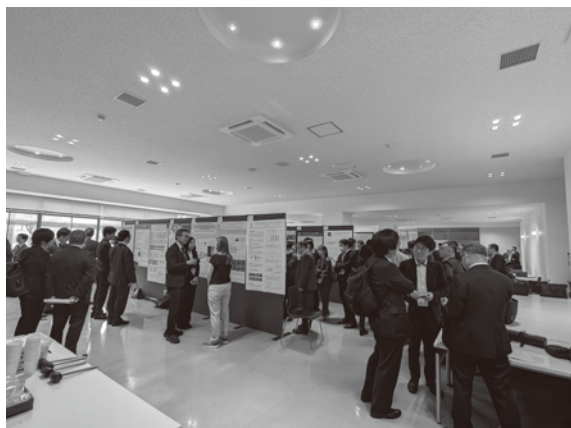
い、活発なコミュニケーションが行われた。懇親会中には研究奨励賞、企業賞の授与式が併せて執り行われた。

2日目は、口頭発表(6題)とポスター発表があり、ランチョンセミナーおよびDentalMaterialsAdviser/SeniorAdviser特別セミナーでは、株式会社ジーシー主任研究員 高田大輔氏に「歯科におけるバイオミメティックアプローチ：ショートファイバー配合フロアブルCRによるデンチンリプレースメント」についてご講演を頂いた。学会主導型シンポジウムでは「歯科理工学における次世代研究者の挑戦的研究」をテーマに日本大学松戸歯学部歯科生体材料学講座教授 谷本安浩先生をモデレーターとし、福岡歯科大学歯科医療工学講座生体工学分野講師 梶本 昇先生、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科歯科保存学分野講師 勝俣愛一郎先生、九州歯科大学生体材料学分野准教授 池田 弘先生、九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座生体材料学分野准教授 林 幸壱朗先生のご講演を頂いた。口頭発表(4題)が行われ、本学術講演会の最後に次回(第84回)の大会長である谷本安浩先生からご挨拶を頂き、2日間の講演会を終えた。

4月なのに暑い名古屋の大会に参加して頂けたことにスタッフ一同感謝を申し上げます。皆様の研究のプラスになれば望外の喜びです。私のわがままで役員の方の先生方に供した名古屋名物の昼食や郷土菓子、さらには懇親会での名古屋めしと東海地区の地酒を残さず平らげて頂いたことに感謝を申し上げ、本学術講演会の報告とさせていただきます。

鶴田昌三

(愛知学院大学歯学部歯科理工学講座)



ポスター会場



口頭発表会場